

九州教育学会 第71回大会 プログラム

第1日 11月23日(土)		
8:30～9:30	受付	教育学部 玄関(1階)
9:30～12:00	自由研究発表 教育哲学部会 教育社会学部会 教員養成部会 教育方法(教育課程)部会	教育学部 202教室(2階) 教育学部 203教室(2階) 教育学部 204教室(2階) 教育学部 301教室(3階)
12:00～13:00	ポスターセッション	教育学部 201教室(2階)
12:00～13:00	昼食・休憩	
13:00～13:50	総会	教養教育棟 第一大講義室(1階)
14:00～17:30	総合部会	教養教育棟 第一大講義室(1階)
18:00～20:00	懇親会	学生交流会館(食堂) B - Forêt
第2日 11月24日(日)		
8:30～9:30	受付	教育学部 玄関(1階)
9:30～12:00	自由研究発表 教育経営・行政部会 教育史部会 比較教育部会 社会教育部会	教育学部 202教室(2階) 教育学部 203教室(2階) 教育学部 204教室(2階) 教育学部 301教室(3階)
12:00～13:00	昼食・休憩	
13:00～15:00	ラウンドテーブル	教育学部 202教室(2階)、 教育学部 203教室(2階)

会員控室は教育学部 201 教室(2階)に設けておりますが、11月23日(土)の12:00～13:00のみ、同教室をポスターセッションの会場としても使用いたします。

会場：大分大学旦野原キャンパス(〒870-1192 大分市旦野原700)

大会準備委員会事務局 E-mail: oitakyukyou@gmail.com

大会参加者の皆様へ

受付

受付は、第1日（11月23日）、第2日（11月24日）ともに、午前8時30分から行います。
場所は、大分大学教育学部1階玄関です。

大会参加費、懇親会費

（1）大会参加費

正会員 3,000円 学生会員 1,500円
臨時会員，ポスターセッション・ラウンドテーブル参加者（会員外） 1,500円

（2）懇親会費

会費 4,000円

※ 懇親会に参加される方は、第1日の午前9時30分までに、会費を添えて受付にてお申込みください。

発表要領

（1）発表時間

- ① 個人研究発表 30分（発表20分 質疑10分）
- ② 共同研究発表 60分（発表40分 質疑20分）

（2）発表資料

発表資料は50部用意し、当日、発表部会スタッフにお渡しください。

昼食

学生交流会館（食堂）B - Forêt ならびに学内コンビニは、大会第1日のみご利用できます。

11月23日(土) 学生交流会館（食堂） 営業時間 11:00-13:30
学内コンビニ（ファミリーマート） 営業時間 8:00-19:00

11月24日(日) 学生交流会館（食堂） 休業、学内コンビニ 休業

会 場

大分大学教育学部・教養教育棟（〒870-1192 大分市大字旦野原 700 番地）

（1）自由研究発表

教育学部 2階 202 教室、203 教室、204 教室
教育学部 3階 301 教室

（2）ポスターセッション

教育学部 2階 201 教室

（3）総会・総合部会

教養教育棟 第一大講義室

（4）ラウンドテーブル

教育学部 2階 202 教室、203 教室

（5）会員控え室

教育学部 2階 201 教室

宿 泊

宿泊先については大分駅周辺にホテルがございますので、そちらを直接ご予約下さい。

交 通

JR 利用 豊肥本線「大分大学前駅」下車、徒歩約 10 分。

- ※ 大分駅から大分大学まではできる限り JR をご利用ください。
- ※ 大分駅から大分大学前駅までの所要時間が約 14 分、料金 260 円です。
- ※ 時刻表については JR 九州大分駅のホームページなどで確認できます。
- ※ 豊肥本線（上り）は行き先にかかわらずすべての列車が大分大学前駅に停車します（ただし特急は除く）。

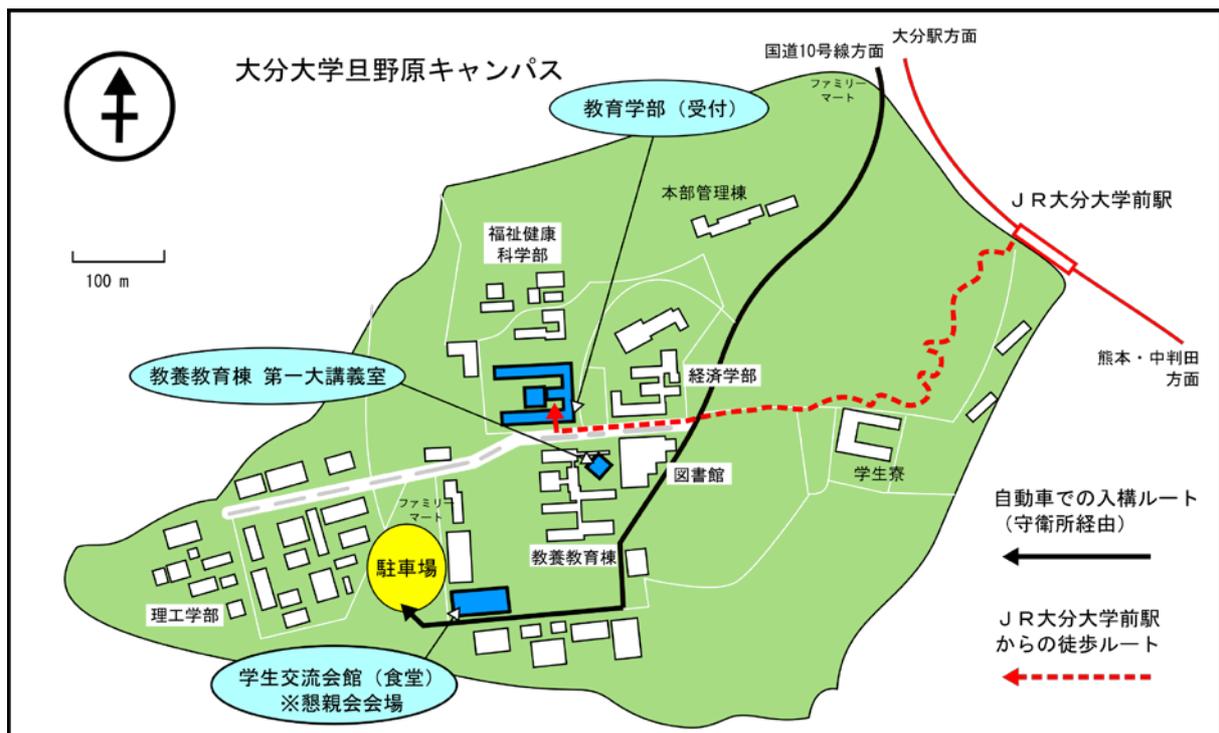
自動車利用 大分駅方面からの場合、国道 10 号線から「大分大学入口」交差点を左折。

- ※ 自動車の場合、大分駅から大分大学までの所要時間は約 30 分です。
- ※ 学内に来客用駐車場は設けられていますが、駐車できる台数には限りがあります。

○大分大学へのアクセス



○大分大学旦野原キャンパス内



教育哲学部会 会場：教育学部 202 教室

司会：上地 完治（琉球大学）

【 1 】 9:30～10:00

レヴィ＝ストロースの「ブリコラージュ」という概念について

齋藤 圭祐（九州大学大学院）

【 2 】 10:00～10:30

ジャン＝リュック・ナンシーと教育哲学に関する試論

山本 源大（京都大学大学院）

【 3 】 10:30～11:00

デューイの「為すことによって学ぶ」の意味

——デューイの「自由」との関連に着目して——

定方 太希（早稲田大学大学院）

【 4 】 11:00～11:30

現代学校道徳教育内容項目と咸宜園の伊呂波歌の比較考察

—徳の樹木モデルを用いて—

大庭 茂美（九州女子短期大学名誉教授）

11:30～12:00 総括討論

教育社会学部会 会場：教育学部 203 教室

司会：田中 理絵（山口大学）

【 1 】 9:30～10:00

ピエール・ブルデューの「界」概念と社会認識

客本 敦成（九州大学教育学部）

【 2 】 10:00～10:30

グループワークにおける話し合いの進め方の違いを探る

－2つのグループの相互行為分析－

山田 明子（九州大学）

【 3 】 10:30～11:00

日中両国における親の養育態度と大学生の自己肯定感

史 怡雯（山口大学大学院）

【 4 】 11:00～11:30

中国の専門職大学院における学外実習に関する研究

王 佳（九州大学大学院）

11:30～12:00 総括討論

教員養成部会 会場：教育学部 204 教室

司会：日高 和美（福岡教育大学）

【 1 】 9:30～10:00

中堅期の教師が「生涯一実践者」として生きることを選択するプロセス
小杉 進二（九州大学大学院）

【 2 】 10:00～10:30

私立一般大学における教職課程履修者の履修継続動機に関する一考察
—福岡大学 2・3 年次生へのインタビュー調査から—
渡邊 晶帆（NPO 法人エデュケーションエーキューブ）

【 3 】 10:30～11:00

若年層教員のキャリア形成に関する事例分析
—教師の憧憬と教職志望の希薄化に着目して—
大竹 晋吾（福岡教育大学）

【 4 】 11:00～11:30

教職実践演習におけるケーススタディの構築
—授業プランと学習効果の測定
白石 義郎（久留米大学 名誉教授）

11:30～12:00 総括討論

教育方法（教育課程）部会 会場：教育学部 301 教室

司会：内山 仁（鹿児島国際大学）

【 1 】 9:30～10:00

学校現場における日本語教室の位置付けに関する研究

趙 樹娟（山口大学大学院）

【 2 】 10:00～10:30

公立中学校におけるカリキュラム開発に関わる実践的研究

～「和白ユニバーサル・カリキュラム」（福岡市立和白中学校）を事例として～

弓削 淳一（福岡市立松崎中学校）

【 3 】 10:30～11:00

小数学習における「比較・関連付け」についての一考察

吉田 安孝（九州大学大学院）

【 4 】 11:00～11:30

児童の学習の振り返りにみえる自己形成についての一考察

ーナラティブ・アプローチの分析法を用いてー

溝上 敦子（久留米医師会看護専門学校非常勤講師）

11:30～12:00 総括討論

ポスターセッション 会場：教育学部 204 教室

【 1 】 12:00～13:00

高等学校における教員の連携・協働づくりと学校変革に関する一考察
ー学校活性化委員会の設置から 3 年間を振り返ってー

中西 美香（佐賀県立佐賀商業高等学校）

【 2 】 12:00～13:00

若手教員の授業力向上のためのミドルリーダーの役割
ーメンターチームを活用してー

四井 江津子（大分大学教職大学院）

【 3 】 12:00～13:00

主体的に探究する力を育てる高等学校理科（化学）の授業

小野 弘嵩（大分大学教職大学院）

会場：教養教育棟 第一大講義室 14:00～17:30

「特別の教科 道徳」の教科書とどう向き合うか ——多面的・多角的に考え、議論するために——

提案者（シンポジスト）

- 丸橋 静香（島根大学大学院教育学研究科）
上地 完治（琉球大学教育学部／九州教育学会会員）
工藤 幸子（大分市教育委員会／小学校教諭）
佐藤 結衣（大分市立原川中学校）

司会

- 山岸 賢一郎（福岡大学）
鈴木 篤（大分大学）

企画

- 鈴木 篤（大分大学）
山岸 賢一郎（福岡大学）
野々村 淑子（九州大学）
乙須 翼（長崎国際大学）

テーマ設定の趣旨

昨年（2022年）の第70回宮崎大会総合部会（「特別の教科 道徳」という不安／希望——「考え、議論する道徳」の行方——）は、「特別の教科 道徳」（道徳科）について、また道徳教育それ自体について根源的に「考え、議論する」ための場であった。すなわち、昨年度の総合部会は、道徳教育と道徳授業の過去と現在を吟味しながらその未来を構想しようとするものであり、「多面的・多角的に」「考え、議論する」道徳授業を生み出すための道筋を教育学的な観点から模索するものであった。

今年の総合部会では、前回大会の総合部会における思考と議論を引き継ぎつつも、より道徳科の授業実践に即した仕方で、より具体的に「考え、議論する道徳」の行方を構想したい。このとき、

私たちは道徳科の「教科書」の取り扱い方に注目するべきであろう。教科書の存在は、道徳科の最大の特徴の1つである。だが、慌ただしくなされた道徳教育改革を受け、限られた時間の中で編集された教科書は、その全てが「考え、議論する道徳」を謳う道徳科に相応しいとは言えない。しかし、それにもかかわらず教科書は、現場で奮闘する教師たちにとって無視することのできないものでもある。

言うまでもなく、道徳授業のための独自教材を開発する試みは以前にも増して重要である。とはいえ、現場の教師はこれとは別の難題、すなわち教科書の存在やその活用方法に関わる難題にも直面している。教師の眼前には、小中学生一人一人に無償給付され、「使用義務」が伴うとされる検定教科書がある。しかも教師は、教科書を「主たる教材」として使用しながら、従来の道徳授業とは異なった在り方の授業を生み出すよう求められている。かくして、道徳科の教科書を用いた上で「多面的・多角的に」「考え、議論する」道徳授業を生み出すための方法を検討することが、道徳教育における喫緊の課題となっているのである。

もちろん、道徳科の教科書やその活用方法について学び考えたり、それを通じて道徳授業の未来を具体的に思い描いたりすることは、現場の教師にとってのみならず、教育学研究者にとっても喫緊の課題である。というのも、教育学研究者の多くは教員養成をその職務の一部としているのであり、道徳科を担当する教員の養成にすでに携わっている。道徳科のよりよい姿を志向するならば、教育学研究者は「多面的・多角的に」「考え、議論する道徳」を生み出すことのできる教師を育む必要がある。また、現場で「主たる教材」たる教科書に向き合う教師の工夫と苦悩を分かち持つ必要もある。つまり、教育学研究者もまた、道徳科の問題を当事者として引き受け、現場の教師から学び、教師とともに学び合いながら、教科書を用いて「多面的・多角的に」「考え、議論する」道徳を生み出す方途を見出していかなければならないのである。

以上の問題意識のもと、第71回大分大会総合部会総合部会では、「**特別の教科 道徳**」の教科書とどう向き合うか——多面的・多角的に考え、議論するために——」をテーマとして掲げる。この総合部会では道徳科教科書とその活用方法について議論しながら、道徳授業において「多面的・多角的に」「考え、議論する」方途とそのための課題を探ることとする。

本総合部会に提案者として登壇するのは、道徳教育改革と道徳授業実践について反省的かつ創造的な思考を紡いできた教育学研究者と、自らの道徳授業の課題と理想に真摯に向き合ってきた小学校（中学校）教師である。4つの提案とそれに続く議論を通じて、教育学研究者と現場の教師、そして教育に関心のある市民がともに学び合い、道徳科教科書の活用方法を吟味し、それによって「多面的・多角的に」「考え、議論する道徳」を実現する道を照らしたい。本総合部会は、教育学研究者と現場の教師と市民がともに創り上げる場である。多くの皆さんの参加を期待したい。

懇親会のご案内

- ・2019年11月23日(土) 18:00~
- ・生協食堂「学生交流会館(B・For・e・t)」

今回の大分大会では、「**豊の国 地産地消**」というコンセプトのもとに、「食」にこだわって本懇親会を準備させていただきました。大分には、**海の幸、山の幸、たくさん**の食材がそろっております。豊かな食から、豊かな会話・アイデア・発想・構想・研究が生まれると確信しております。また、食育の一助にもなればと思います。今宵、大分の代表的な味を思う存分ご堪能ください。多数の参加をお待ちしております。

メニュー

○魚(さしみ舟盛り)

- ・関アジ、関サバ、カボスヒラメ、カボスぶり又は美人ぶり、ヨコヅナまぐろ(津久見市の養殖マグロ)、ヒラマサ(※当日は、入荷状況によりますので、どの魚になるかは楽しみに)

○肉(牛と鶏)

- ・おおいた和牛(豊後牛)ももステーキ
- ・オードフル(中津風唐揚げと大分の戸次(へつき)ゴボウなど野菜の煮物)
- ・豊後とり天と大分椎茸の天ぷら盛り合わせ

○やさい、サラダ

- ・珍珠のしいたけまんじゅう(九重女性クラブによる創作料理)
- ・スモークサーモンサラダ

○ご飯・麺類

- ・寿司盛り合わせ(魚の入荷状況により、いろいろです。これも楽しみに)
- ・吉野とりめし(「吉野鶏めし保存会」による伝統の郷土料理。「美味しんぼ」に掲載)
- ・りゅうきゅう丼(かぼすぶり又は美人ぶりをご飯に乗せた郷土料理 JAL 国際線機内食に採用)
- ・だんご汁(大分の郷土料理)
- ・日田やきそば風

○のみもの、フルーツ

- ・のみもの: 鷹来屋(純米吟醸酒、豊後大野町の酒蔵)、麦焼酎(いいちご、二階堂)、いも焼酎(黒霧島)、高級安心院ワイン、梨園、ウーロン茶、かぼすジュース、日田天領水など。
- ・フルーツ盛り合わせ(大分の「日田なし」他) 全12品

(担当: 伊藤安浩、平田利文)

教育経営・行政部会

会場：教育学部 202 教室

司会：山崎 清男（大分大学）

【 1 】 9:30～10:00

現代中国の教育改革における求められる校長像の変容

殷 爽（九州大学大学院）

【 2 】 10:00～10:30

中国の義務教育段階における農民工子女の就学実態

—学校形態の比較分析の試み—

万 奕（九州大学大学院）

【 3 】 10:30～11:00

教育コミュニティが子どもの学力に与える影響

—ある小学校区を事例にして—

川畑 和久（大阪大学大学院）

【 4 】 11:00～11:30

ミドルリーダーの省察を促す方法論の検討

—10年間のインタビューデータの共同分析—

青木 大祐（長崎大学）

池田 一幸（長崎大学）

野崎 晃由（長崎大学）

○畑中 大路（長崎大学）

11:30～12:00 総括討論

教育史部会 会場：教育学部 203 教室

司会：江口 潔（九州大学）

【 1 】 9:30～10:00

青年師範学校の制度的意義に関する一考察

小田 義隆（近畿大学）

【 2 】 10:00～10:30

九州大学教育学部ならびにその前身高等教育機関における教育学研究スタッフに着目した教育学研究の歴史的発展過程の一側面に関するプロソポグラフィ的研究

鈴木 篤（大分大学）

【 3 】 10:30～11:00

日本の教育学におけるニーチェ受容

—長田新の場合—

松原 岳行（九州産業大学）

【 4 】 11:00～11:30

教授内容にみる戦前公民科の変容

—「立憲政治」に関する内容を手がかりとして—

釜本 健司（新潟大学）

11:30～12:00 総括討論

比較教育部会 会場：教育学部 204 教室

司会：松尾 智則（中村学園大学）

【 1 】 9:30～10:00

日中における幼稚園教諭のストレスに関する要因の比較分析を中心として

楮 蕾（山口大学大学院）

【 2 】 10:00～10:30

日本と中国における社会科系教科の教育内容の現状と課題

西川 侑里（山口大学大学院）

【 3 】 10:30～11:00

韓国の学校における「民主市民教育」

朴 永奎（長崎外国語大学）

【 4 】 11:00～11:30

タイにおける不就学児童および就学継続が困難な児童のための支援政策と現状

○森下 稔（東京海洋大学）

平田 利文（大分大学）

11:30～12:00 総括討論

社会教育部会 会場：教育学部 301 教室

司会：相戸 晴子（宮崎国際大学）

【 1 】 9:30～10:00

韓国における住民自治制度と住民の主体形成に関する研究

— 済州特別自治道における住民自治センターの取組を中心に —

金子 満（鹿児島大学）

【 2 】 10:00～10:30

アメリカにおける 21 世紀型博物館教育の動向

- 「伊藤寿朗:第三世代の博物館像」を踏まえて-

梶原 健二（福岡女子短期大学）

【 3 】 10:30～11:00

教育の市場化によって行き場を失う子どもたち

— シカゴ市における特別支援教育の実情 —

川上 具美（西南学院大学）

11:00～11:30 総括討論

教育学部 202 教室 13:00～15:00

グローバル化と教育

—SDGs のアプローチ—

話題提供者：大田 真彦（九州工業大学）
東野 充成（九州工業大学）
酒井 佳世（久留米大学） 他

これまでの大テーマ「グローバル化と教育」の下、本年度は「SDGs のアプローチ」として、国連サミットで採択された持続可能な開発目標（SDGs）の中の「教育」について検討したい。

まず、SDGs をどのように理解し、実際の教育現場で活用されているかについて報告をしていただく。また、国によって異なる教育のあり方について話題提供をしていただき、参加者と共に議論を深めていきたい。

教育学部 203 教室 13:00～15:00

OJT と Off-JT を「橋渡し」する教員育成指標の活用は可能か？

話題提供者：元兼 正浩（九州大学）他

教員育成指標によって多角的な供給主体による力量形成機会が可能となった。だが、力量のカテゴリー（スコープ）もライフステージごとの各段階における力量の深まり（シークエンス）も曖昧で、指標を活用した研修も教育センター内（Off-JT）にとどまっており、各学校の校内研修などの OJT や教職員の研究と修養、自己啓発に十分活用されているとはいえない。

本ラウンドで教員育成指標を OJT と OffJT の橋渡しとして活用できるかという問題意識から、その活用可能性についての議論を行う。なお、本研究は NITS 大学院レベルの高度な現職教員研修プログラム開発・実施事業の一環として行われる。